



平成 29 年 12 月 20 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ァ ー マ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義
(コード番号：4585 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之
電 話 0 4 5 - 5 9 5 - 9 8 4 0

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 29 年 3 月 24 日に公表した平成 29 年 12 月期（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）の通期業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 29 年 12 月期 通期業績予想数値の修正（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	153	△512	△167	△170	△13.96
今回修正予想（B）	104	△509	△167	△168	△13.68
増減額（B-A）	△49	3	0	2	—
増減率（%）	△32.0	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成 28 年 12 月期）	52	△552	△480	△8,344	△804.39

2. 業績予想の修正理由

当社は、平成 29 年 1 月に、主要自社開発パイプラインであった「UMN-0502」（季節性組換えインフルエンザ HA^{注1}ワクチン（多価））の厚生労働省に対する製造販売承認申請取り下げを受け、当時の連結子会社であった株式会社 UNIGEN の事業譲渡等を実施、抜本的な事業再構築・グループ再編を行いました。当社経営環境の急激な変化への対応策として、平成 29 年 2 月 14 日に「今後の当社事業方針について ～大規模生産事業モデルから、CMC^{注2}開発・工業化検討段階に特化した事業モデルへの転換～」を発表、新たな事業方針の下、次世代バイオ医薬品自社開発事業及びバイオ医薬品等受託製造事業を中心に展開しております。

上記新事業方針に基づき、早期の提携パートナーとの提携実現を目指し活動した結果、平成 29 年 10 月 31 日に開示した「資本業務提携並びに第三者割当による新株式及び第 1 回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行に関するお知らせ」に記載の通り、塩野義製薬株式会社とヒト用感染症予防ワクチンをはじめとする創薬に関する基盤技術整備、並びに当社が次世代バイオ医薬品自社開発事業で開発を進めている自社開発パイプラインの一部及び自社開発パイプライン以外の新規開発候補ターゲットを当初の開発候補品として選定し基礎的研究を進めることを目的とした業務提携を行うとともに、塩野義製薬株式会社を割当先とする新株式及び第 1 回無担保転換社債型新株予約権付社債を発行いたしました。

平成 29 年 12 月期においては、平成 29 年 10 月 31 日に開示した「資本業務提携並びに第三者割当による株式及び第 1 回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行に関するお知らせ II. 第三者割当による本新株式及び本新株予約権付社債の発行 9. 今後の見通し」に記載の通り、塩野義製薬株式会社から、当該資本業務提携とは別に、当社が塩野義製薬株式会社に対して提供した当社独自の技術情報等の情報提供に係る対価を受受

し売上に計上いたしました。一方、バイオ医薬品等受託製造事業について積極的な営業活動を推進してまいりましたが、塩野義製薬株式会社との資本業務提携契約締結に伴い上記研究開発活動に専念する義務を負うこととなったことから、横浜研究所、秋田研究所及び秋田工場の各拠点において、塩野義製薬株式会社との業務提携に係る研究開発活動に集中することといたしました。結果、バイオ医薬品等受託製造事業が計画未達となったため、平成29年12月期における売上高の予想を下方修正いたしました。

一方、費用面におきましては、当初想定していたバイオ医薬品等受託製造事業売上減少に伴い売上原価が減少することとなり、研究開発費において塩野義製薬株式会社との業務提携に係る試験研究関連費用が平成29年11月以降増加したものの、一般管理費におけるコスト抑制を徹底いたしました。結果、営業損失段階においては、売上減少による影響を吸収し、前回予想とほぼ同等となる見込みであります。経常損失段階においては、上記新株式及び第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行に伴う株式発行関連費用が新たに発生いたしました。また、当期純損失段階においては、法人税等負担が当初想定より減少する結果、前回予想とほぼ同等となる見込みであります。

なお、今回修正業績予想の当期純損失額に基づき算出した、事業年度末である平成29年12月31日時点における貸借対照表の純資産額はプラスとなり、確実に債務超過を回避できる見込みであります。

(注1) HA：(Hemagglutinin ヘムアグルチニン)

試験管内にて赤血球の凝集体を作らせる働きを有する糖たん白で、インフルエンザをはじめとするウイルスや細菌等の表面に存在する。ウイルスは、ヘムアグルチニンの働きにより、細胞に感染する。HA1とHA2からなるモノマー(単量体)がトリマー(三量体)を形成する構造をとる。

(注2) CMC：(Chemistry, Manufacturing and Control)

医薬品における原薬プロセス研究、製剤開発研究及び品質評価研究を統合した概念。

(注) 上記業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上